

平成 23 年度事業計画

自 平成 23 年 4 月 1 日

至 平成 24 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

はじめに

平成 23 年度活動基本方針

I 公益財団法人への移行に向けて

II 囲碁普及活動の充実強化

1 青少年等への囲碁普及活動（囲碁入門教室）の充実

1-1 囲碁入門・初級教室」の実施

1-2 学校教育への囲碁導入の推進

1-3 学校囲碁指導員講習会の継続開催

1-4 こども囲碁教室を全国各地で開催

1-5 青少年囲碁大会の開催

1-6 囲碁少年少女育英資金による事業の継続

1-7 囲碁に関する研究と大学での囲碁授業の展開

2 国内への囲碁普及活動の活性化

2-1 個人会員制度の抜本的な見直し

2-2 法人会員と法人賛助会員

2-3 全国囲碁組織の統括と各組織の活性化支援

2-4 免状発行の拡充

2-5 インターネットによる普及事業活動の更なる拡充

2-6 院内事業の充実

2-7 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

3 海外への囲碁普及活動

3-1 国際囲碁連盟（IGF）の事務局活動

3-2 国際囲碁選手権・大会の運営

3-3 棋士海外派遣事業

3-4 海外囲碁会館の運営

III 棋道研鑽推進

1 棋戦の運営

2 専門棋士の育成

IV 出版事業

1 雑誌・新聞の発行

2 書籍発行

3 電子書籍化

V 広報活動

VI 各拠点での活動

1 八重洲囲碁センター

2 関西総本部

3 中部総本部

はじめに

日本棋院は、世界及び日本囲碁界の総本山として下記の重要な使命を実現するために、平成 23 年度の事業計画を以下の通り策定し推進していく。

＜日本棋院の使命＞

1. 棋道の発展を図る
2. 囲碁の素晴らしさを国内外に伝え普及する
3. 我が国の伝統文化、囲碁を次世代に伝承する
4. 囲碁を通して社会と文化に貢献する

平成 23 年度 活動基本方針

次の 3 点を重点に棋道の発達と囲碁を次世代に伝承する幅広い活動を展開するとともに、公益財団法人として期待される活動を積極的に展開する。

- ・ 青少年への囲碁普及活動（入門・初級教室の全国開催）
- ・ 全国囲碁組織のネットワーク構築
- ・ 棋道研鑽の強化（若手棋士の強化支援、院生研修制度の充実）

I 公益財団法人への移行に向けて

平成 20 年 12 月に施行された公益法人制度関連の法案に基づき、日本棋院は、公益法人への移行を目指して着実に検討を重ねて準備してきたが、昨年 12 月 14 日に、内閣府の公益認定等委員会に公益財団法人への移行認定申請書を提出した。

できるだけ早期に公益法人財団への移行を目指していく。

II 囲碁普及活動の充実強化

日本の伝統文化である囲碁は、自由な発想と創造性を育むとともに、脳の活性化や生きがいの形成、人と人とのふれあいなどにも大いに役立つことが福祉、医学、教育界で認知されてきている。この理念のもと本年度は更に、幅広い世代へ囲碁の素晴らしさを伝えていくために、囲碁普及活動を強力に推進する。

囲碁愛好者の減少傾向に歯止めをかけるためには、地道な普及活動を継続していくことが極めて重要であり、日本棋院にとって最も大切な公益活動という認識のもと、「棋士囲碁普及活動制度」を活用して、全国に棋士を派遣し、囲碁を知らない方を対象に入門初級教室を積極的に開催する。

1 青少年等への囲碁普及活動（囲碁入門教室）の充実

日本棋院では、囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求める活動を以前より実施してきたが「自ら学び、自ら考える力の育成」、「生きる力を育む」といった学校教育の改革テーマが囲碁を通じて得られることに、各教育機関をはじめ他分野からも注目されてきている。地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した囲碁事業を広く展開する。

1-1 囲碁入門・初級教室の実施

「伝統文化体験教室」、「総合学習のキャリア教育」、「放課後子どもプラン」などを受け皿に、全国 250 箇所で開催予定。

1-2 学校教育への囲碁導入の推進

- (1) 学校での正課授業や部活動への囲碁導入支援
- (2) 学校囲碁指導員制度の拡充及び指導員養成とその派遣
- (3) 文部科学省「放課後子どもプラン」の中での囲碁導入推進
- (4) 高等学校における日本の伝統・文化としての囲碁の授業の導入推進
- (5) 囲碁入門用指導テキスト、入門用碁盤セットの配布促進

1-3 学校囲碁指導員講習会の継続開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また良き指導者を養成するため、財団法人 JKA の補助を受け、学校囲碁指導員講習会を全国的に展開する。(本年度の予定：17 会場での開催を企画する。)

1-4 子ども囲碁教室を全国各地で開催

日本棋院会館内の「子ども教室」及び「入門教室」を充実強化するとともに、日本棋院各支部や各自治体等が主催する「子ども囲碁教室」を全国的に展開していく。日本棋院は、これらの各支部や各自治体等からの要請に応じてこれらの活動を支援していく。

1-5 青少年囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした 3 つの全国大会及び地区大会を開催し、また、各県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行なう。

(1) 第 32 回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

各県大会を勝ちあがった選手の全国大会を 8 月 2 日～3 日の 2 日間、東京の日本棋院で開催予定。昨年地方大会は 4,952 人が参加 (小学生:3,390 人・中学生:1,562 人)。地方大会において複数会場開催を呼びかけ、参加校、参加人数増を目指す。全国大会は小・中学生それぞれ 101 人が参加する予定で、大会の様子は NHK 教育テレビで放送 (予定)。

(2) 第 8 回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

昨年度の地方大会は小学校 311 校、1,212 人、中学校 223 校、866 人が参加。今年度の全国大会は 7 月 31 日～8 月 1 日の 2 日間、小中学生それぞれ 1 チーム 3 名編成の学校単位のチームの団体戦で開催予定。

(3) 第 35 回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

昨年度の地方予選では 1,270 校、4,521 人 (男子:3,529 人・女子 992 人) が参加。昨年度に引き続き地方大会において複数会場開催を呼びかけ、さらに参加校、参加人数増を目指す。全国大会は 7 月 25 日～27 日の 3 日間、東京の日本棋院で開催予定。

(4) 第 14 回任天堂こども大会

中学生以下のこどもを対象に 5 月 4 日、日本棋院で開催予定。マリオ、ピーチ等のキャラクターの名称を使つてのクラス分けを行う。9 路盤、13 路盤、19 路盤の使用がこどもたちの人気を呼び、今年度も 1,500 人以上の参加を見込む。

(5) その他の大会

ジュニア囲碁大会、子ども囲碁フェスティバル、ジュニア囲碁パーク等の継続開催。

1-6 囲碁少年少女育英資金による事業の継続

全ての日本の子供たちに“囲碁の素晴らしさ”を伝える活動として、囲碁少年少女育英資金を有効活用し、囲碁の才能育成のための奨学金事業、学校教育への導入の際の専門棋士または指導員の派遣、囲碁大会、用具支援等を行う。

1-7 囲碁に関する研究と大学での囲碁授業の展開

(1) 東北大学加齢医学研究所との「囲碁と脳に関する研究」を継続

平成 22 年度より囲碁入門者の親子を対象とする実証研究を開始したが、平成 23 年度は、東北大学加齢医学研究所が実証研究の結果を分析して、囲碁が親子のコミュニケーションに与える影響を検証する。研究結果は、普及活動の側面支援に有効活用する。

(2) 大学での囲碁授業の展開

今年度も、東京大学、早稲田大学、慶應大学での囲碁授業の講師として専門棋士を派遣するとともに、他大学での囲碁授業の開設をめざして継続的な活動を展開する。

2 国内への囲碁普及活動の活性化

囲碁のすばらしさを伝え、囲碁を知らない方への入門指導、一般アマチュアの棋力向上に取り組み、囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承する。また世代を超えて生涯楽しめるものとして、地域社会でのコミュニケーションの手段として取り入れられるよう積極的に活動する。

2-1 個人会員制度の抜本的な見直し

個人会員制度の現状は、賛助会員・普通会员Ⅰ（月刊碁ワールド）・普通会员Ⅱ（囲碁未来）・後援会員・週刊碁会員・セレクト会員の 6 種類あり、さまざまな棋力やニーズに対応している。会員の総数は平成 22 年 12 月末現在 37,533 名。

個人会員管理システムを改修した結果、様々なデータ分析が可能となり、よりきめ細かなサービスを提供できるようになった。

今後は、インターネット会員とのデータ統合し、顧客管理の一元化を実現。顧客満足度の向上を図るとともに、さらなる会員サービスの開発に注力する。

2-2 法人会員と法人賛助会員

(1) 法人会員

企業の福利厚生の一環として社内で囲碁交流を推進していただくため、会員誌の配布、棋士による指導碁等の特典を設けるほか、企業同士の交流会等を企画し、団塊の世代に囲碁普及を推進する。

(2) 法人賛助会員

法人賛助会員は日本棋院が行う普及活動に賛助いただくもので、各企業の社会貢献活動として、子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の取組みに幅広く活用する。

2-3 全国囲碁組織の統括と各組織の活性化支援

関西総本部、中部総本部のほか、各県に県本部あるいは県支部連合会を設け、会員で組織される 700 余の全国の支部を統括し、囲碁大会の主催、協力、後援を推進する。

(1) 都道府県民まっりの開催

1. 世界アマ選手権日本代表決定戦 県予選

世界アマチュア選手権の日本代表を決める全国大会への出場権を獲得するための予選には昨年約 1,800 余名の参加を得た。年々参加国が増加し発展する「世界アマ大会」の唯一の国内予選として今後も強力に推進する。

2. 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的にまた、支部の活性化となるよう推進する。

3. 段級位認定大会

級位者から高段者まで幅広く親しまれ、昨年は約2,800余名の参加を得た。特に底辺拡大を図るためにも、級位認定部門への参加を大きく呼びかける。

- (2) 支部代表者懇談会の開催
- (3) 普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰の実施
- (4) 専門棋士の派遣
- (5) 囲碁未来教室の開催
- (6) 普及指導員制度の拡充と指導員研修会の開催と派遣

2-4 免状発行の拡充

各種大会、段級位認定大会、支部からの推薦、紙上認定用の問題を各新聞社に提供するほか、新聞認定、Web認定等を行い全国で免状取得を促進し、アマチュアの棋力向上と囲碁普及に努める。

2-5 インターネットによる普及事業活動の更なる拡充

インターネットを通じた情報発信は年々重要度を増しており、日本棋院では囲碁の素晴らしさを伝える手段として、インターネット環境での囲碁普及を推進している。囲碁ファンの拡大はもちろん囲碁に興味のある方への様々なアプローチを行う。

(1) インターネット通信対局「幽玄の間」

あらゆる世代の囲碁ファンにパソコン上で手軽に対局が楽しめる環境を提供している。国内のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとコミュニケーションの場が広がりを見せている。

「幽玄の間」では、対局の他に様々なサービスを展開している。

- ・大和証券杯ネット囲碁アマチュア選手権
- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップレベルの棋譜を配信
- ・棋士による指導碁
- ・棋士とのふれあいイベント
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流

(2) 情報会員

情報会員は最新棋譜から過去の名局まで、40年以上に亘る、約4万局の棋譜データ提供をサービスの中心としている。ためになる棋譜解説、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページの充実を図り様々なファン層に対応している。平成22年9月にはデザインを一新し新たに動画講座もスタートした。

平成23年はさらにコンテンツを充実させ、サービスを向上させる予定である。

(3) 碁バイルセンター

携帯囲碁サイト「碁バイルセンター」では、手軽に囲碁情報や、棋譜鑑賞、さらには対局まで楽しめ、入門コンテンツや囲碁問題を提供し、どこでも囲碁が楽しめるコンテンツをさらに充実させる。

(4) 情報端末向けサービス

平成22年1月より、携帯電話（ドコモ、au、ソフトバンク）向けに、タイトル戦の生中継サービスを開始している。平成22年度は棋聖戦七番勝負、十段戦五番勝負、碁聖戦五番勝負で中継を行った。平成23年度はさらに他棋戦でも中継できるように努める。

2-6 院内事業の充実

- (1) 囲碁学校・段級位認定大会・入門教室の開催
- (2) 級位者の日、有段者の集い開催
- (3) 囲碁殿堂資料館の一層の充実
- (4) 秀哉賞、大倉喜七郎賞、棋道賞の顕彰
- (5) 合同表彰式、打ち初め式の開催

2-7 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催予定。今年度の主な大会は以下の通り。

- (1) 第4回宝酒造杯クラス別チャンピオン戦
級位戦から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会。全国7ブロック、9会場で地方大会を開催し、11月に全国大会を開いてチャンピオンを決定。
- (2) 第54回全日本女流アマ選手権戦
各県大会を勝ち上がった選手128名が3月19日～20日、日本棋院で行われる全国大会で日本一を競う。
- (3) 第49回女流アマ都市対抗戦
女流アマ碁界のもうひとつの大きなイベントに位置づけられる都市対抗戦。
1チーム5名の団体戦。11月16日、7日の2日間、那覇市で行う予定。全国からの参加選手は約700人と予想される。
- (4) 第11回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権
内閣総理大臣杯・全国アマチュア団体囲碁選手権は、1チーム3名編成であれば誰でも参加できる団体戦。東京と大阪の2会場で開催され、昨年は78団体、129チームが参加。2会場の優勝チームは東京で決勝戦を行い、勝利チームに内閣総理大臣杯が授与される。
- (5) 全国規模イベントの参加
今年度の「国民文化祭」は10月29日～11月6日、京都府で、「ねんりんピック健康福祉祭」は、10月15日～18日に熊本県で開催される。生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として積極的に参加、協力を行う。
- (6) その他大会等
ジャンボ大会、オールアマ団体戦、段級位認定大会を随時開催して囲碁ファンの交流の場となるよう、また棋力向上につながるよう努力する。

3 海外への囲碁普及活動

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともに、マインドスポーツという側面でも、他国の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大を図る。

3-1 国際囲碁連盟（IGF）の事務局活動

1982年3月の設立以来、加盟71カ国の事務局として世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努める。国内外大会の主管・後援などの支援、各国への情報の発信・総括を行い、世界に棋道研鑽（世界規模での棋力向上）精神を発展させる。

3-2 国際囲碁選手権・大会の運営

- (1) 第32回世界アマチュア囲碁選手権戦の開催
囲碁による相互理解と文化交流を基本理念に、各国の選抜戦を勝ち抜いた世界中のアマチュア囲碁愛好家が、国を代表して「世界一」を目指し、4日間にわたる熱戦

を繰り広げる大会。昨年は、60 カ国・地域から 60 人の選手が参加。本年は、5 月 29 日～6 月 1 日、島根県松江市にて開催予定。

(2) その他アマチュア国際大会への参加、国際交流の支援及び後援

1. 国際アマチュア・ペア碁選手権大会の後援
2. 世界学生囲碁王座戦の協力
3. 応昌期ユース大会（台湾）の支援
4. 大韓生命杯少年少女囲碁選手権戦（韓国）の支援
5. 韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権の支援
6. 日本大使館杯等大会への賞品の提供と後援
7. ヨーロッパ及びアメリカ碁コンGRESの支援

3-3 棋士海外派遣事業

各官公庁・民間団体等の支援を得て、専門棋士を海外に派遣し、囲碁の紹介と入門・指導を行い普及に努め、外国語の教材の作成、盤石の提供を行う。

(1) 文化交流使の支援

文化庁の「文化交流事業」の一環として、海外の人々に日本文化への理解の促進と日本と外国の文化のネットワーク形成・強化のため、棋士を文化交流使に推薦し、その活動に支援を行う。

(2) 国際交流基金の助成事業

棋士 1 名 （予定）

3-4 海外囲碁会館の運営

ブラジル・サンパウロの日本棋院南米本部をはじめオランダ・アムステルフェーンの日本棋院ヨーロッパ囲碁文化センター、シアトルの米国西部囲碁センター等を拠点とし、現地の普及活動を支援する。

Ⅲ 棋道研鑽推進

1 棋戦の運営

棋戦は、囲碁の歴史を創造する場であり、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。棋戦の様子は、テレビ、インターネットで中継や解説会などを行い、全国の囲碁愛好者の棋力向上に寄与している。特に地方で開催される挑戦手合や棋戦では、専門棋士と地元愛好者、子どもたちの交流の場として、対局を直に見る機会を設けるほか、大盤解説会や指導碁等、ファンイベントを開催する。そのほか国際棋戦やインターネットを使用したネット棋戦を実施する。

また、若手棋士の育成強化を図り、地域の活性化と囲碁普及を目指す新しい棋戦の開拓に取り組み、昨年度より、三重県伊勢市で「おかげ杯」を開催。本年度は新規にシニア棋戦エステー&フマキラー囲碁マスターズカップを開催する。主な棋戦は別紙の通り。

2 専門棋士育成

院生制度は、棋士の育成を目的とする日本棋院発足時から存在する伝統ある制度。国際的にも通用する強い棋士の養成が、日本の囲碁界の発展と囲碁普及に極めて重要なものと位置付け、研修日には師範をおき、礼儀作法から指導する。

- (1) 内弟子支援（特別奨学金の支給及び院生研修費(授業料)免除等)

- (2) 成績優秀生支援（成績優秀生の研修費(授業料)免除）
- (3) 院生研修検討会（タイトル経験のある棋士による解説検討会を実施）
- (4) 院生ネット指導（インターネット上で棋士と対局し、個別に指導を実施）
- (5) 中国への合宿（中国棋士と若手棋士・院生優秀者の交流対局の実施）

IV 出版事業

日本の伝統文化である囲碁を次代に継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、国内外問わず、出版物の刊行を通して囲碁文化・囲碁技術に関する情報を提供する。

定期刊行物以外にも新刊書籍を発刊して、囲碁ファンのニーズに応えていく。また、日本棋院のホームページで、既刊書籍案内及び各種新刊案内・定期刊行物案内、更にはキャンペーンやイベントなどの情報提供をしていく。

1 雑誌・新聞の発行

インターネット事業部との連携強化

今年度からQRコード（二次元コード）を本誌類に掲載し、携帯から棋譜手順を楽しむサービスを順次提供していく。携帯では対局再現、本誌類からは棋譜解説で相乗効果を狙い、学習の向上、カスタマーサービスの向上を目指す。

(1) 月刊「碁ワールド」（会員誌）

中級から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュースなど、バラエティーに富んだ内容が特徴。

(2) 月刊「囲碁未来」（会員誌）

入門から初段を目指す人を対象に、棋力向上を中心とした布石、定石の問題、入門初級者向けの囲碁情報を掲載。また囲碁未来教室のテキストとしても活用し、全国各地の支部、碁会所、普及指導員とリンクした級位者の拡大を推進。

(3) 「週刊碁」（会員紙）

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い読者層を意識した多彩な構成を特徴とし、国内外の囲碁愛好者へ情報を発信。

(4) 「囲碁年鑑」

月刊碁ワールドの臨時増刊号として、5月に発行予定。平成22年一年間の国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑などの情報が満載。

2 書籍発行

書籍は、さまざまな棋力の読者に向けて刊行しており、入門者から初段を目指す方々に向けては、定石・格言を中心とした上達講座や手筋・詰碁問題集を、有段者から高段に進もうとしている方々には、トップ棋士の打碁集、高級手筋・詰碁問題集を出版している。今年度は、手筋事典など年間12冊の新刊書籍を刊行予定。

3 電子書籍化

日本棋院発行の雑誌や週刊碁、また一部書籍を電子書籍化する。電子書籍は紙媒体よりも抑えた価格で提供でき、WEB経由で国内・海外でも入手を容易にするため、現在発行の紙媒体と共存、ハイブリット化をめざし、囲碁ファンの利便性を追求した新たなコンテンツ開拓を行う。

V 広報活動

日本棋院が主催・後援する国内外の棋戦や大会情報だけでなく、幅広く碁界の情報を収集して、囲碁ファンや報道関係者の皆様にタイムリーな情報を発信する。

(1) 日本棋院ホームページの充実

より見やすく利用しやすいページを目指して、ホームページを運営している。最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報、棋士プロフィールなどの囲碁情報をはじめ、これから囲碁を始めた方のための簡単入門ページ、英文ページの充実など国内だけでなく、世界の囲碁ファンに向けてタイムリーな情報提供を行い、囲碁普及に努める。また、棋士の素顔をファンにアピールするブログの充実を図っていく。 日本棋院ホームページ <http://nihonkiin.or.jp>

(2) 記者懇談会の開催

囲碁を通じて、様々な公益活動を展開する日本棋院の活動への理解を深めて頂くために、囲碁担当記者との懇談会を隔月で開催して情報を発信していく。

(3) プレスリリース

囲碁に関するニュースを随時作成して配布する。なお、囲碁による教育的な効果に関する研究成果については、医学界や教育界へ幅広く情報提供を行う。

VI 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって本年度の事業計画を策定し、積極的に推進する。

1 八重洲囲碁センター

東京駅・八重洲北口という地の利を活かし、全国の囲碁ファンへ総合的なサービスセンターとしての役割を担う。センターでは棋士による指導碁、盤石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校、特にこども教室の充実に努める。各種囲碁大会、碁会に利用できる貸室も一層のファンサービスを心掛ける。

2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)と広島、岡山両県を統轄する。

(1) 囲碁普及

各県の各種大会の開催定着を図り、県下の支部活動を活性化し、会員及び囲碁ファンの拡大を目指す。支部に棋士を派遣し、より一層の親睦を深めるとともに地域の囲碁普及に邁進する。

(2) 各種大会の開催及び後援（主なイベントは以下の通り）

- ・夏休み子ども囲碁フェスティバル
- ・歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり
- ・阪急囲碁まつり

(3) 会館事業の充実

ホールでは、一般対局のほか棋士による指導碁、級位者の日や有段者の集い、囲碁学校、入門教室を開催。初心者・級位者へ更なるPRを行い、より充実した内容に

努め囲碁ファンの棋力向上に貢献する。貸室では、法人各種団体の利用を促進する。

(4) こども達への囲碁普及の充実

関西棋院、NPO法人ライフこども囲碁クラブと共に協力し子供大会をより一層充実させるとともに小中学校等の囲碁教室への協力や普及指導者への支援等、関西のこども達への普及をより一層拡大させるように努める。

3 中部総本部

名古屋に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括する。

(1) 中部管内の囲碁普及発展

公益活動を通して、中部管内の支部、各地域の自治体・地域サークル活動への支援・協力体制を整え、伝統文化「囲碁」の普及に努める。

(2) 各種大会の主催及び後援等

中部総本部が実施する主なイベントは以下の通り。

- ・囲碁ゼミナール
- ・東海地区朝日アマ団体十傑戦
- ・ジャンボ団体戦
- ・中部こども級位者大会
- ・会員と棋士囲碁のつどい
- ・愛知県・江蘇省青少年囲碁交流
- ・早春囲碁のつどい

(3) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

中日新聞社主催「第52期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

中日スポーツ主催「プロ・アマお好み対局」

(4) 指導碁・囲碁学校・イベント

1. 指導碁は、平日1名、土・日曜日は2～3名のプロ棋士を配し、指導碁の充実を図る。
2. 院内イベントの充実を図る。
 - ・「10 アンダーの日」
 - ・「級位者の日」、「有段者の日」
 - ・「Happy 級位者の日」、「Happy 有段者の日」
 - ・いつでも入門
3. 入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会、全11コースの内容をより充実したものに努め、囲碁ファンの底辺拡大に努める。

(別紙) 棋戦一覧

棋 戦 名	共催・協賛社	優勝形式
棋 聖 戦	読売新聞社	七番勝負
名 人 戦	朝日新聞社	〃
本 因 坊 戦	毎日新聞社	〃
十 段 戦	産経新聞社	五番勝負
天 元 戦	新聞三社連合	〃
王 座 戦	日本経済新聞社	〃
世界選手権・富士通杯	読売新聞社・富士通	一番勝負
碁 聖 戦	新聞囲碁連盟(共同通信社)	五番勝負
竜 星 戦	囲碁将棋チャンネル	一番勝負
NECカップ	NEC	一番勝負
NHK杯	NHK	一番勝負
テレビ囲碁アジア選手権	NHK・KBS・CCTV	一番勝負
新 人 王 戦	しんぶん赤旗	三番勝負
阿含・桐山杯全日本 早碁オープン戦	毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗	一番勝負
阿含桐山杯日中決戦	毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗	一番勝負
女 流 本 因 坊 戦	共同通信社	五番勝負
女 流 名 人 戦	産経新聞社	三番勝負
女 流 棋 聖 戦	NTTドコモ	三番勝負
広島アルミ杯若鯉戦	広島アルミニウム	一番勝負
王 冠 戦	中日新聞社	一番勝負
おかげ杯	濱田総業	一番勝負
エステー&フマキラー 囲碁マスターズカップ	エステー・フマキラー	一番勝負
大和証券杯(ネット棋戦)	大和証券グループ	一番勝負